

## 10月の株式市場展望

(作成者：奥村義弘)

### <国内株式>

日経平均株価は、N A F T A再交渉の妥結や為替のドル高円安を受け楽観論が広がり、10月2日に2万4,448.07円と約27年ぶりの高値を付けた。その後、欧米の長期金利急上昇を受けた利益確定の動きで反落、9日の日経平均株価は2万3,400円台まで調整した。市場では米国の金利動向にからんで物価指標などへの関心が高いが、10月中旬以降は、7-9月期の日米企業決算の発表が相次ぐ。関心は個別決算の内容に移ろう。一方、国際情勢では、英国とEUのブレグジットに関する会合、15日までに提出予定のイタリアの予算案等、欧州関連でリスク含みのイベントが目立つ。

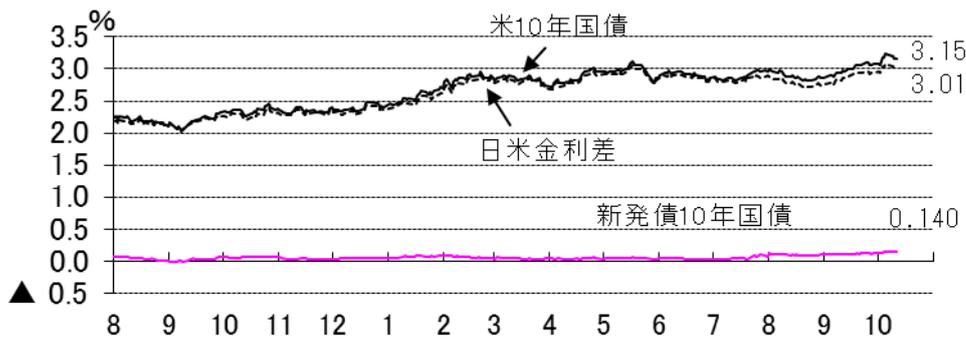
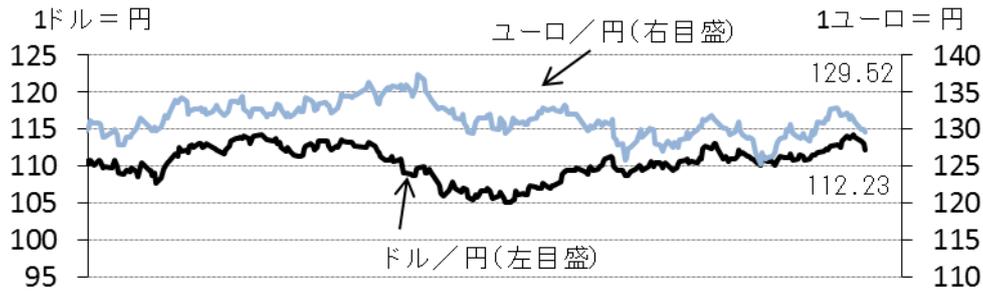
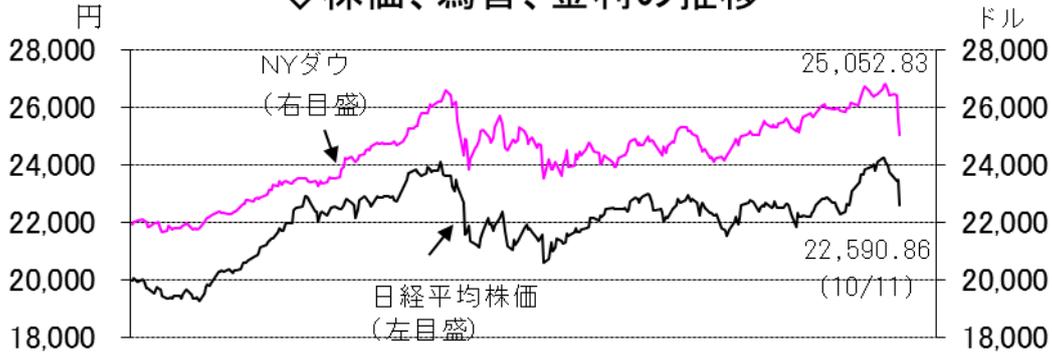
米景気の好調さが米金利の先高観につながりやすい環境が続いている。また、9日に公表されたIMFの世界経済見通しでは、世界経済の見通しが2年ぶりに下方修正された。貿易摩擦のエスカレートや新興国市場への圧力が指摘されており、景気ピークアウトへの警戒感の強まりもみられる。株価面では米国の金利上昇や株価急落を嫌気し、11日には2万2,500円近辺に急落した。当面は下値模索の動きが想定されよう。一方、7-9月期の決算発表は事業環境を分析する機会となろう。企業の収益力は格段に高まっており、環境変化に抵抗力のある企業は多い。株価は強弱材料が交錯するなか、好業績株選別の好機となろう。10月（10月12日から11月11日）の日経平均の予想レンジは2万2,000円～2万3,500円。

### <米国株式>

米国市場では10年債利回りが一時3.26%まで上昇し、悪い金利上昇への警戒感が強まっている。金利の上昇は好調な米国経済を反映しており株価に悪材料とは言えないが、欧州発のイベントリスクや中国や新興国経済の先行き不透明感が強まり、バランスが問われる状況である。パウエルFRB議長の「中立金利水準を超えて利上げを進める可能性がある」との発言も重しとなっている。9月の雇用統計では、賃金上昇の圧力は高まらなかったが、原油価格の上昇、好調な米国の景況感など先行きのインフレ圧力を高める材料も多く、株価の高値警戒感につながりやすくなっている。

米国株も7-9月期の決算発表シーズを迎える。7-9月の企業業績は堅調さをキープする可能性が高く、好調な景況感は幅広い業種にわたろう。一方、これまで良好な動きであったラッセル2000やNASDAQなどのテクノロジーセクターが利益確定売りに押されており、ボラティリティの高まりにも引き続き注意が必要だろう。11月6日は米国の中間選挙だが、トランプ政権が強行姿勢を続けてきた米中通商交渉に変化がみられるかに関心が集まろう。10月（10月12日から11月11日）のNYダウの予想レンジは25,500±1000ドル、ハイテク株の多いNASDAQは7,400±500ポイントを予想する。

## ◇株価、為替、金利の推移



(注)直近値は10月11日

(出所)CAM作成

お問い合わせ先 ちばぎんアセットマネジメント株式会社 調査部 電話(代表) 03-5638-1460

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第443号

加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-13-7

### [重要開示事項]

- 本資料は、ちばぎんアセットマネジメント株式会社(以下「CAM」)調査部が投資判断の参考となるよう情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料はCAMが信頼できると考える情報源から得た上記日時現在の各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性についてCAMが保証するものではありません。
- 加えて、本資料に記載されたCAMの意見ならびに予測は、予告なしに変更することがあります。
- 投資に関する決定は、お客様ご自身の判断でお願いいたします。